

2019 (平成31) 年度  
公募制推薦入試  
卒業生子女・弟妹入試  
〔法学部〕  
小論文問題

注意

- 1 開始の合図があるまでは、開かないこと。試験時間は六〇分である。
- 2 黒色鉛筆を使用すること。
- 3 解答用紙の所定欄に、氏名・受験番号を記入すること。
- 4 縦書きにすること。
- 5 下書きには、この用紙の余白を使用すること。
- 6 書き損じても、解答用紙は再交付しない。
- 7 この用紙は、試験終了後に回収しない。

解答要領

解答は問題文中の設問の指示に従って、解答欄に適切に書くこと。  
なお、句読点・かっこなども字数に加える。また、段落の初めの空きや、段落の終わりの行にできた空きも、書いてあるものとみなし、字数に加える。

以下の「社説」を読んで、設問に答えなさい。

大きな政策転換に見える。だが、根底を流れるご都合主義<sup>①</sup>と排除の思想<sup>②</sup>は相変わらずだ。

政府は、外国人が就労できる新たな在留資格をつくり、受け入れを拡大することを「骨太の方針」に盛り込んだ。一定の技能と日本語能力を持つと判断した人に、最長5年間の在留を認める。25年ごろまでに50万人超の来日をめざすという。

いまは、技術や知識を学んで自国に帰ってもらう「技能実習制度」がある。政府は国際協力の一環というが、実際は低賃金労働者の確保策になっていて、内外の批判を浴びてきた。

今回の方針は、そうしたごまかしではなく、正式に門戸を開く点で新たな一歩と言えなくはない。だが政府の目に映っているのは、人手不足を補うための単なる「労働力」であって「人間」ではないのではないか。そんな疑問がぬぐえない。

象徴的なのは、家族の帯同を基本的に認めないことだ。技能実習生から新資格への切りかえも可能で、その場合、長いと10年間、離ればなれの生活を強いられる。あまりに酷な話だ。

ところが日ごろ家族の大切さを説く自民党は問題視せず、むしろ外国人が増えると治安が悪化するとして、方針に「在留管理の強化」を書き加えさせた。

首をひねる点は他にもある。

当面は、建設、農業など人手不足が深刻な5業種での受け入れが想定されているが、方針には明確な定めはない。早くも製造業への適用を求める声が出ていて、なし崩し的に低賃金の固定化が進むおそれもある。

大切なのは、外国人労働者を社会を構成する一員として正面から迎え入れる姿勢だ。

その観点から政府がとり組むべき課題のひとつに、日本語学習の機会の保証がある。生活のルールや習慣が共有されなければ、対立や分断を生み、治安にも影響が及ぶ。すでに大勢の外国人がくらす自治体には、学習支援やきめ細かな行政サービスの提供など、さまざまな経験がちくせき<sup>a</sup>されている。その歩みに学ぶことは多いはずだ。

雇い入れる企業の側も、賃金や休日などの労働条件を順守するのはもちろん、その外国人の文化・しゅうぞく<sup>b</sup>を理解し、働きやすい職場をつくる責任を負う。方針に書かれた「受け入れ環境の整備」を、官民で内実あるものにする必要がある。

③ 政府は「移民の受け入れではない」とくり返すが、もはや日本社会は外国人の支えなしにはなり立たない。現実を見ずえ、共生のための仕組みづくりを急がなければならない。

(2018年6月19日 朝日新聞 朝刊「社説」)

## 設問

1. この「社説」に適切なタイトルを15字以内でつけなさい。
2. 傍線部 a 及び b を漢字で書きなさい。
3. 傍線部①の「ご都合主義」の一つとして、この「社説」で批判されている外国人労働者に関する政府の評価を、文中から18字で抜きだして示しなさい。
4. 今回の政府の方針に示されている事項のうち、傍線部②の「排除の思想」の具体例の一つとして、この「社説」で指摘されている事項を、文中から7字で抜きだして示しなさい。
5. 傍線部③の「共生のための仕組みづくり」のために、この「社説」で示されている基本的な考え方を、文中から30字で抜きだして示しなさい。
6. この「社説」の内容をふまえて、あなたの考えを501字以上600字以内で示しなさい。